シート張り工(1)

「水防工法の基礎知識」(社)全国防災協会より

必要な使用資材・工具、人数 1681 本当たり ● 竹→7本 (B72 B9, B850-1001) プルーSrート→1枚 sa sva 2m3 ±のう→17@ muoro atomo servicos! ● 杭→3本 (without, We Land Difference that -2 to be a series Difference -35 to be a series (基礎で展現の報告(中央部) -15年 ms. send • h90-7n-war →3t prove areas オノー1丁 クリッパー (ベンチ) →1丁 ●のこぎり mm → 1丁 • LØ-3T ● 自用→3本 Caldina Serion カッター (カマ) →2丁 ●掛矢→1丁

●ブルーシートの用意

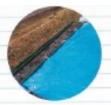
(必要人数) 10人

- 破5.4m×横3.6m (又は4.5m×2.7m) のブルーシートを使う。
- シートは最初裏面に広げ、最後の出来上がり時には表面が上になる手順とする。

❷力竹の結束(止場と下場)

 シート両端に力竹をあてがい、既設のハトメ穴を利用し、 約1m間隔に「いぼ結び」で結束する。





●骨竹の結束(中間部)

 シートを広げたままの状態にして、シート下面に骨竹(こ こでは5本)を横からさし込み(※1)両端を既設ハトメ穴 を利用し、約1m間隔に[いば結び]で結束する。(※2)















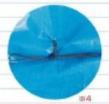


●骨竹とシートの縫い合わせ

- 縫う方法はひもまたは番線を使う。
- 骨竹を片側方向にたぐり寄せ、シート中央部分を動1m間隔に縫う。
- ひもで縫う場合(※2)
- "しの" で穴をあけ、ひもを通し、「いぼ結び」で結束する。
- 番線の場合(※3)

シートに直接番線を突き刺し、そのまま番線をよじり結束 する。





ここでの結びはシートのはく離防止が目的なので、 結びにゆとりがあってもよい。

結束バンドの場合

⑥シートの裏返し

- シート全体を裏返す。
- 上部の力竹を2人がそれぞれ端を持ち、また下部の力竹の 両端を2人でそれぞれ持ち上げ、シートを反転しながら片 力にずらす。
- 上部になる力竹を2人で両端を持ち上げ、堤内側にずらしながら、下部になる力竹の上をまたぐ。
- 次に下部になる力竹を2人で両端を持ち上げ、そのまま川側にずらす。
- シート全体が表面になりかつ、骨竹も表側になる。



シート張りエ(2)

「水防工法の基礎知識」(社)全国防災協会より

の吊りローブを選す

下部の力竹にローブ先端部を「ふな結び」で結束する。



- 各骨竹へは「"の" 字結び」で結束する。
- 「"の" 字結び」の手順は、ローブを骨竹の上で全部たぐり 寄せ、骨竹のところでこぶしぐらいの大きさの半円弧状を 作り、それを骨竹の下に通し、たぐり寄せたローブを半円 弧状の中に入れ引く。



- 各骨竹に同じ作業で結束する。
- 上部力竹への結束は、
- ●吊りローブが長い場合、そのまま「のの字結び」で結束 し、堤防横断方向の長さを確保する。
- ❷吊りローブが短い場合、吊りローブを継ぎ足すので再度 上部力竹に「ふな結び」で結束し、堤防横断方向の長さ を確保しておく。









- おろし土のうは下部力竹に取り付ける。位置は吊りローブ の上にくるように置く。
- 次に所用の長さ(最初の骨竹に届く長さ)のローブ(ひも) を「かみくくし」により力竹に結束する。
- その上に土のうを置き、「本結び」で固定する。



2本のローブ(ひも)を束ね、上方骨竹に「ふな錆び」で結 東する。この場合、結びしろを20cm以上残す。

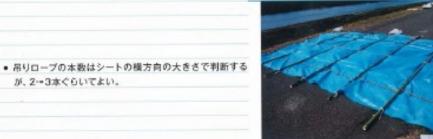


同じようにおろし土のうを3ケ所取り付ける。



❸シートを"すのご巻き"

おろし土のうと下部力竹が芯になるようシートを *すのこ 巻き"にする。



シート張り工(3)

「水防工法の基礎知識」(社)全国防災協会より

●シートの移動とおろし (下し)ローブの取り付け

- "すのご着き"のシートを持ち上げ、川側堤防斜面上端に移動する。
- この時に素早くおろしローブも取り付けるものとし、所用 の長さ(シートの鞍の長さの2倍と背後の杭までの距離) のローブを "すの乙巻き" の中央部で上から下にくぐらせ、 (※5) 上部力竹に「ふな結び」で結束する。(※6)





●留め杭打ちと重し土のう

- 堤防居住地側斜面に留め杭を打つ。その場合、杭は堤防 斜面上端から50cm以上離し、千鳥で堤防斜面に直角に 打つ。(※7)
- 上部力竹からの吊りローブを留め杭に「ふな結び」または 「かみくくし」で結束する。



シートのあおり止めのため、重し土のうを作る。土のうは 2個以上用意し、ローブは「かみくくし」で



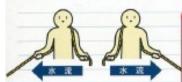




シートをおろす人と、あおり止め重し土のうを投下する人 は「もやい結び」により命綱を身につける。

●シートおろし

"すの乙巻き"にしたシート中央都付近の前面に1人が立 ち、おろしローブを肩にかけ (背中斜めに)、片足をすの乙巻 きシートの上に置き、反動をつけ、シートを強く蹴りおろす。



層にかけ、背中斜 めに通して持つ。











肩にかけたおろしローブで落下速度を調節する。

広いシートを施工する場合は、おろし ロープは2人で行う。

また、堤防等の勾配が緩くシートが下 りない場合は、下ろす人で加勢する。

心あおり止め重し土のうを投下

- 骨竹の上をめがけて(より効果的な位置)重し土のうを素 早く投げ込む。(※9)
- おろしローブ及び重し土のう用ローブはそれぞれ留め杭に 「ふな結び」または「かみくくし」で結束する。(※10)









- ★この工法は流れが伴う水中に投下するため、安全対策として「もや い結び」による命摘を必ず身につける。
- ★堤防等保護のため、各斜面上端に枕土のうを口を下流に向け置 く、また、杭の打ち込み位置も一直線にしないで千鳥に打つ。

